

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0991100140 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 湘風会 | | |
| 事業所名 | グループホーム フロール (Aユニット、Bユニット共通) | | |
| 所在地 | 栃木県矢板市鹿島町2-29 | | |
| 自己評価作成日 | 2021年1月26日 | 評価結果市町村受理日 | 2021年3月31日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人アスク | | |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市松浦町118-189 | | |
| 訪問調査日 | 2021年2月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームフロールは、矢板市の中心に位置し、近くに小学校・児童クラブ・市役所等があり駅から徒歩圏内で外出や地域交流に恵まれた環境となっています。認知症があっても住み慣れた地域との関わりや継続と残存能力の維持が出来るように、そして毎日笑顔で過ごしていただけるよう支援に努めております。また、地域密着型サービス事業所として、小規模多機能型居宅介護施設たちばなの連携を密にして、利用者様の安心・安全に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小規模多機能型居宅介護事業所を併設した2ユニットのグループホームである。矢板市の中心部にあり、市役所に近く、向かいには小学校がある静かな住宅地に位置している。「『ゆっくり』『一緒に』『楽しみながら』一人一人のその人らしさを大切に生活支援に努めます」を理念に、職員が一人ひとりの思いを受け止めながら支援に努めている。食事は利用者の好みを取り入れて三食を手作りし、外食や出前の利用や、利用者も調理に参加する食の企画もあり美味しく楽しく食べる機会を多く提供している。コロナ禍で外出も家族との面会も制限される中、職員は工夫を凝らしホーム内での楽しみを多くして、利用者の笑顔があふれるように支援している。コロナ禍以前は多様なボランティアが来所し、様々な行事を通じて地域の人や小学校の学童保育の子ども達と交流を図っていた。今年度は交流の機会がほとんどなくなっているが、運営推進会議の委員である区長や民生委員、家族代表が事業所近くの住民であり、コロナ収束後の活発な交流再開が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 当法人の理念である「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」を各職員が共有しあい利用者様のペースを保ちながら生活支援に努めている。 | 『ゆっくり』『一緒に』『楽しみながら』一人一人のその人らしさを大切にした生活支援に努めます」を理念に掲げ、職員が利用者一人ひとりの思いを受け止めながら、生活を支えている。2つのユニットがそれぞれの利用者の好みや生活を反映しているせいか、ユニット毎に雰囲気が異なっていることにも理念が実践されていることが現れている。また、起床時間も利用者によってまちまちで、ある早起きの利用者のために、好きなシャンソンをリビングに流して、朝食までの時間を過ごしてもらった例がある。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年は、コロナ禍の為に地域の方々及びご家族様の来訪に制限が、あり交流の機会がもてなかった。コロナ禍が、落ち着いたら再開を考えている。 | 以前は、様々な行事や機会を捉えて地域の人々やすぐ目の前の小学校に設置されている学童保育の子ども達との交流を図っていたが、コロナの感染防止のために今年度はそれらのすべてが中止となっている。事業所の開設に際しては、地域から雨水の排水等について懸念が示され、話し合いを重ねた。排水のための側溝工事を施して建設を進めた結果、事業所に対する理解が得られ、現在は良好な関係が築かれている。 | 運営推進会議の委員が近隣住民ということもあり、コロナが収束したら、交流を再開して地域とのつながりをさらに強化することが期待される。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ボランティアの受け入れ中学生及び近所の方々の見学はコロナ禍の影響で全て中止となってしまった。コロナ禍が、落ち着いたら再開を考えている。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍の影響で運営推進会議を開催することができないので書面を委員の方々へ配布して意見をいただきまとめている。 | 運営推進会議の委員は、市職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、家族代表、法人代表、職員等であり、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で年6回開催している。今年度は、コロナ禍のため、すべて書面開催となっている。事業所の運営状態や行事報告、職員勉強会報告などの資料にアンケート用紙を添えて委員に送り、意見や感想を寄せてもらっている。委員からは、コロナ禍で外出等がままならない中、行事を工夫している点などに対する、励ましの声などが寄せられている。 | 寄せられたアンケートの内容が、議事録としてまとめられているので、これを委員以外の家族にも配布するなどして、事業所の取り組みへの理解を図ることが期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍の影響は、あるが矢板市との連携は、できている。 | 市の職員は運営推進会議の委員として参加しており、様々な助言や指導をしている。コロナ感染防止に対する市からの助言内容は事細かく、慎重であり、事業運営の参考にしている。市からはマスクの配布などもあった。市は、希望者に防災無線の小型受信機を配布しており、訪問調査の日に、事業所に届いたところであった。屋外に設置されている防災無線スピーカーからの音声聞き取りづらかったため、管理者はこれで直接、市からのアナウンスを聞き取ることができると安心の様子を見せていた。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。各居室・食堂・脱衣所・玄関の施錠は、夜間のみとしている。 | 身体拘束についての勉強会を年間の研修会の中に組み入れ、その内容を運営推進会議に報告して各委員の意見を聴取し、身体拘束適正化委員会の活動としている。直近では、「向精神薬の使用」についての資料をもとに、レポート提出を含めた職員間での意見交換を実施している。医師の処方では睡眠導入剤や向精神薬を服用している利用者があり、日常生活において活動低下や傾眠等の支障を来さないよう、医師からの指示を受け職員が服薬量の調整をしている。 | 職員が仕事をしているキッチンなどの共用部分や利用者の居室等からは、外玄関の様子が見通せず、出て行ってしまう利用者を見落とすことがあったため、外玄関は常に施錠し、来訪者にはインターフォンで対応している。また、向精神薬を服用している利用者があり、それらの行為が利用者の自由な行動の制限や拘束にあたらないか、常に検証して、ケアの改善を図っていただきたい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についての勉強会は、全体で話し合いができないので各自が内部資料等を読みレポートを提出している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援や成年後見人制度については、内部資料等を読みレポートを提出している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約は、管理者が対応し十分な説明を心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍なので面会が、できず家族様からの意見を聴く機会が少なかったが病院受診時等にお聞きした。 | コロナ禍で面会が制限されており、家族が事業所を訪ねることが減っている。通院介助や利用料の払い込みなどで家族が来訪した折には、声を掛け意見や要望を聞くようにしているが、意見が出ることはほとんどない。面会が制限されて利用者から寂しいとの声もあがり、家族からの要望で窓越しの面会や電話での対応を実施して、交流を途絶えさせないようにしている。家族には毎月の利用料請求書に、本人の写真を添えた送り状を添付して様子を知らせている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定例会議や申し送りなどの時間等で意見や提案を聞く機会を設けてる。 | 毎月、職員定例会と学習会を実施し、参加出来ない場合は資料を配付してレポートを提出させるなど、意識の共有化を図っている。管理者は年2回職員との個人面談を実施し、業務についての希望や悩みなどの相談を聞いている。職員の提案で、午前に体操をして一日の生活リズムを作るようにした例がある。また、行事などについての工夫も職員から多くの提案があり、実践されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務時間を配慮しながら職員の意向を確認しながら努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | コロナ禍の影響で事業所内研修及び合同研修は、できないので苦手な勤務内容(調理・入浴介護など)を職員同志で教え合っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍の影響で市内のグループホーム交流会・情報交換などが、できないでいる。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 認知症の症状があることからどんな事に困って不安なのか理解するのは難しいが少しでも安心感をもっていただけるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申し込みの段階から要望などを傾聴し入居するまでに少しでも関係作りができるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様や家族様の状況を把握するために必要としている支援を十分に話し合い実際に行えるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 以前は、食器拭きを行っていたが現在はテーブル拭きや洗濯物たたみや廊下等のモップ掛けを時々していただいている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様との絆を大切にしているがコロナ禍の影響もあり面会が出来にくいので病院受診の時等で関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居されていた利用者様のお気に入りのシャンソンを朝食前に聴いて落ち着いている。親しい友人の方が、訪ねてくることもあった。 | コロナ禍で、馴染みの場所に行ったり、家族も含めて馴染みの人との交流をしたりすることが出来にくくなっている。そのような中、職員は工夫を凝らし、ホーム内での楽しみを多くして、利用者の笑顔があふれるように支援している。また、ユニット内での利用者同士の人間関係が良好に保たれるよう気を配っている。身近な隣人として併設の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者の存在があるが、感染防止のため、利用者はもちろんのこと、職員さえ行き来をしないよう気を付けており、窓越しに手を振りあっている姿が見られるのみとなっている。暫く中止となっていた、訪問理容師による散髪が再開して喜ばれている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様の相性などを考慮した座席の配置や個々の能力に合わせたケアを実施したり全員で楽しめるレクリエーションや行事を計画している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後も特養や医療機関に電話等で様子を聞いたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご家族や個々の希望に添えるように日々の生活の中から仕草や表情などからも支援に繋がるものを見つけている。 | 職員は利用者一人ひとりの生活歴や好み、思いを理解しようと努めており、生活の中で、それぞれが役割を発揮でき、楽しみが見いだせるように工夫している。掃除やテーブル拭き等、得意なことをその人のペースでやってもらい、生活に張り合いを持ってもらっている。職員の提案でクリスマスには衣裳を着て楽しみ、母の日には女性の利用者にはドレスを着てもらって、記念写真を撮影した。それぞれが異なるドレスを着、化粧をして輝くような笑顔の写真がリビングの壁に飾られている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 以前の担当ケアマネジャーや家族様そして利用者様本人からの情報を把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様個人の経過記録やバイタル表・排泄チェック表そして介護職員等からの情報を参考にしながら状況を把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護職員の利用者様担当に状況を確認したり申し送りや状況によりカンファレンスを行い情報をまとめて介護計画の参考に行っている。 | 利用者には担当の職員が決まっているが、普段のケアの実践でそれぞれが気づいたことや利用者の状態について日々の申し送りノートに記し、互いに確認し合って共有化を図っている。計画作成担当者が半年ごとのモニタリングをし、毎月の職員定例会で利用者ひとりずつの状況を報告・確認しながら、計画の見直しが必要であれば、家族と連絡を取って担当者会議を開催し、介護計画の変更を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 申し送りや経過記録または、介護職員からの情報をもとに見直しを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | コロナ禍の影響もあり面会や外出そして外泊も禁止されているので柔軟な対応が出来なくなっている。職員は、創意工夫して対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍の影響もありボランティアの受け入れ地域の方々との交流が楽しめない状況である。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 状況に応じて家族様に説明したりや主治医あてに手紙を書くなど経過報告を提出するなどして状態の変化をお伝えしている。 | かかりつけ医への通院には家族が付き添い、家族の都合がつかない時は職員が付き添っている。受診の時には家族にバイタル表を渡して日頃の様子を伝え、診察後は家族から薬の変更の有無等受診内容を口答で伝えてもらい、申し送りノートに記入し情報を職員で共有している。利用者の様子を医師に直接説明して指示を聞きたい時は、職員も同行している。コロナ禍の中では薬だけを家族がもらいに行くこともある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤の看護師が、週2日勤務して日頃の健康管理に努めている。介護職員や計画作成担当者は、日頃の様子観察を行い気づきや変化を報告し相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | コロナ禍の影響もあり退院前には、計画作成担当者が中心となり病院担当者と情報交換をした結果を管理者・職員と話し合いを持っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当施設での受け入れ可能について病院担当者及び家族様と話し合いをするが、場合によっては他の施設を紹介している。 | 利用者や家族の希望があれば事業所で看取りができるよう体制作りをしたいと考え、職員に対してターミナルケアの研修を続けている。矢板市には訪問診療の環境が整っていないことから看取りの体制作りが困難になっている。今は利用者の体調が重度化したり終末期に近づいた時には、家族と医師と話し合い事業所でできる対応を説明し、他の施設を紹介するのが現状である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者様の急変時や事故発生時に備えて勉強会を行い対応をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回昼間想定・夜間想定・地震想定・火災想定など状況に応じた訓練を行っているが、現在地域の連携は難しくなっている。 | コロナ禍で消防署員の立ち合いや近隣住民へ呼びかけをしての訓練はできなかったが、市の職員の立ち合いで日中想定避難訓練を実施した。懸案であるパッケージ型消火設備の使用方法を全職員が理解するため、点検業者への指導要請や訓練を実施することはできなかった。災害に備えて自家発電機を購入し、防災無線を明瞭に聞くための小型無線機が市から配布された。 | 定期的に昼夜、地震、火災等を想定して訓練を実施し、反省点を共有し、利用者を安全に避難させる方法を全職員が身につけ、地域の協力も得られるよう努めて欲しい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々を尊重及び尊厳を持った言葉遣いに気配りした対応に心掛けている。 | 毎年接遇の研修を行い、利用者に尊敬の念を持ち馴れ馴れしくならないよう敬語を使い、話す時は速度や声の大きさに気をつけ、安心安全対応に心がけた支援に努めることを、定例会等でも確認している。職員はチェックシートをつけて自分の言動を振り返り、支援の向上につなげている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様の表情などから選択肢を設けて希望が叶えられるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その都度に応じて利用者様の希望やペースに応じて対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時や入浴後に整髪したり着たい服を選んでいただく。コロナ禍になる前は、月に1度散髪ボランティアに所依頼していた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食材の味付け・嗜好品や形状に気を配りながら対応していく。時には、食事レクリエーションを計画し献立の下準備を手伝っている。 | 利用者の希望や好みを取り入れて、職員が献立を立て三食を作っている。利用者の体調や咀嚼力に応じて、細刻みや粗刻み、あんかけ等と食べ易く対応している。コロナ禍で外出ができなくなり、利用者に気分転換をしてもらいたいと食事レクリエーションを度々企画している。カレーやお好み焼き作りでは利用者も野菜の皮むきや刻みを担当した。自炊生活経験者の男性利用者が包丁を器用に使い隠れていた能力を発揮した。デザートのおトッピングや好きな麺を選んで出前してもらう「出前デイ」も企画して、楽しく食べる機会を提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者様の疾病などにあわせた食事量及び水分量を記録して不足時には適時言葉かけしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを利用者様の状態に合わせた言葉かけ及び介助にて実施し感染予防・誤嚥予防をしている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握しながら適宜それとなく言葉をかけ必要な備品を準備して誘導する。 | 利用者の排泄パターンを把握して支援することにより、昼間は全員がトイレで排泄ができている。夜間はおむつの人や起きてトイレに行く人、自室のポータブルトイレを使用する人等利用者それぞれの排泄支援をしている。転倒の危険のある人には低床ベッドやマット、人感センサー、すず等を利用して、利用者の動きを察知して転倒を防止する支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表にて排便状況の確認を行い必要に応じて下剤の服用及び腹部を揉んだりする等や運動している。また、毎朝の食事にヨーグルトを提供している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の時間帯(午前)曜日(原則として1日おき)ですが、通院や体調面を考慮して臨機応変に対応している。 | 利用者は1日おきに入浴している。通院の予定や体調によって入浴日を変える等柔軟に対応している。浴槽内に滑り止めマットを敷き、車椅子の乗降に注意を払い、タイルは滑るので利用者を1人にしない等安全面にも気を配っている。支援は1対1で利用者のペースでゆっくり入浴している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼夜を逆転しないように昼間になるべく起きていただき活動(運動や体操など)を取り入れたり昼寝も体調を考えながら短時間取り入れている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々に処方された服薬時間・服用用量をダブルチェックで配薬して利用者様の前でも日付・服用時間・氏名を伝えて服用している。症状の変化も適宜看護師等に報連相している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様に洗濯物を畳んでいただいたり季節の行事で季節を感じたり誕生日には、誕生日会でお祝いしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | フロア内の歩行や天気の良い日に駐車場までの気分転換を図っている。 | コロナ以前は季節の花々を見に行ったり、りんご狩り、紅葉狩り等のドライブ外出や外出と外食を合わせた企画を積極的に行っていた。コロナ禍の今年度は車窓から紫陽花を見るドライブに1回出かけただけである。代わりに施設内を歩いたり、玄関前の駐車場まで外気浴を兼ねて散歩に出たり、午後の時間に体を使うレクリエーションを取り入れたり、玄関前のポーチでティータイムをしたりと工夫している。 | コロナ収束後には、季節を楽しむドライブや外食等の外出支援や個別の外出支援、日常の散歩等が再開されることを期待する。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族様の理解が得られる利用者様は、少額のお金を所持している。または、金庫に預かり必要に応じて支払いしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状・母の日・暑中見舞いなどを季節ごとにさせていただいたり電話で直接お話ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールや玄関などに行事の写真や季節感のある装飾品を利用者様と一緒に作ったり飾ることで談話している。 | リビングは天井が高く明るく開放的で、窓際にゆったりとしたソファが置かれ、中央には大きなダイニングテーブルあり食事や歓談の場になっている。壁には利用者や職員で作った季節をテーマにした壁飾りや「母の日」にドレスアップした利用者の晴れやかな表情の写真が貼ってある。キッチンからはリビング全体、トイレ、浴室が見渡せ利用者の様子を見守ることができる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者様同士で談話されたり職員と世間話を楽しんでいる利用者様または、利用者様同士の居室を行き来している利用者様もいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前に使用していた家具や装飾品などで居室内の空間を自分好みにしている。または、旦那様の遺影を飾る利用者様もいる。 | 居室に備え付けられているのはカーテン、ベッド、洗面台、エアコン、ナースコールで、各室のカーテンの色や壁紙の色と柄が異なっているので居室毎の印象が違っている。ベッドは電動ベッドで、利用者の状態によって低床ベッドに変更できる。加湿器や衣装ケース、テレビ等は利用者が用意し、室内には家族や夫の写真が飾ってある。衣替えや毎日の掃除は職員が行い、食事等で利用者が不在の時に換気をしている。転倒の心配のある利用者は職員の目の届く居室に移動してもらい見守っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部は、安全に移動できるようにバリアフリーにしてありトイレも引き戸にしてあるので利用者様自身で開けやすくなっている。 | | |